

1 福岡市全体の結果について

(概要)

本市の小学校の調査結果は、国語、算数ともに福岡県をやや上回っている。とりわけ、国語B（主として活用）、算数B（主として活用）についてはその伸びがみられるが、算数A（主として知識）については、県平均と同程度である。

(各教科に関する考察)

①国語、算数で正答率が高い問題は以下の通りである。

国語A・・・漢字の読み

スピーチの内容で適切なものを選択

国語B・・・司会の発言の選択

意見の共通点と相違点を整理して書く

算数A・・・棒グラフの読み取り

( ) を用いた計算

ひし形の性質や定義

算数B・・・目的に応じて表から読み取る

荷物のサイズを表から読み取る

②国語、算数で正答率が低い問題は以下の通りである。

国語A・・・主題を置き換えた記事の書き直し

主語と述語の照応

国語B・・・考えと理由を書く

条件に合わせた言葉の書き出し

算数A・・・百分率の意味の理解

平行四辺形の求積

算数B・・・比較量の大小についての証明

図形の形と大きさを判断して記述

(改善に向けての方向性)

国語・・・条件に合わせて書く活動の工夫

算数・・・正答率が低い単元の見直し

適用問題などによる定着の充実

## 2 本校の結果について

### (概要および各教科に関する考察)

学年全体としては、算数、国語ともに福岡県の平均とほぼ同程度の結果を挙げることができている。

#### <国 語>

A問題（主として知識）、B問題（主として活用）ともにおおよそ福岡県の平均と同程度である。

#### <算 数>

B問題（主として活用）については、おおよそ福岡県の平均と同程度であるが、A問題（主として知識）は、努力を要する結果となっている。

#### <全体的な傾向>

- 漢字を書いたり読んだり、計算をしたりといった基礎的な問題はできているものの、文章の内容を読み取ったり、答えを文章で答える記述式の問題が全体的に苦手である。
- 6年生で学習した問題はできているものの、5年生や4年生で学習したことを忘れてしまっている傾向がある。

### (改善に向けての対策)

調査を受けた6年生については、問題用紙と解答、個人の結果表を配布する。配布の際には、担任から子ども一人一人に見直しのポイントなどを伝える。そのことを受けて、冬休みなどに定着のため取り組むようにする。

#### <国語科の課題>

- ・登場人物の気持ちを読み取ることが努力を要する。
- ・表現の特徴を考えながら文章を読み取ることが努力を要する。

#### <算数科の課題>

- ・「はかりを読む」「時間を計算する」など4年生以前の学習理解が努力を要する。
- ・百分率の意味理解が努力を要する。
- ・自分の考えを記述方式で回答する問題の正答率が低い

以上の傾向から、以下のような改善に向けての対策を考える。

- 長文を読んで、そのあらすじや要点をつかむ力を伸ばす。(読書のすすめ)
- 以前に学習したことが定着していない傾向があるため、定期的な復習を意図的・計画的に取り組む。
- 他教科での関連指導を行う。例えば、社会科での資料の読み取り、理科での事象の関係づけやきまりをみつけるなど、主体的に課題解決の意識をもたせて取り組ませる。
- すべての教科で、自分の考えを書いて説明する、また、他者の考えを聞き取り、読み取り、取り入れるといった学習活動をこれまで以上に位置付ける。